

# 第1章 高齢者のICT利活用をとりまく状況

本章ではまず、既存資料などにより、我が国の高齢化の現状や高齢者層の ICT 利活用、社会参加、意識の現状等、本調査の背景となることがらを概観する。

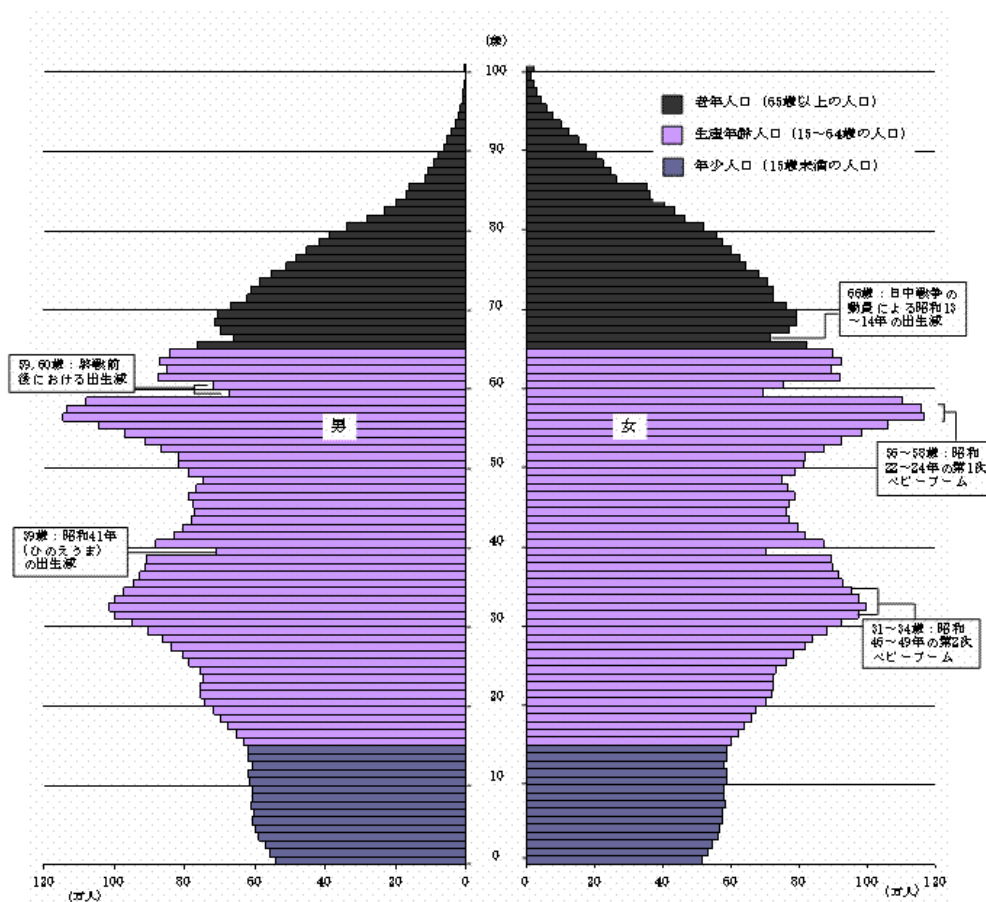
## 1-1 我が国の高齢化の進展

わが国の人口の高齢化は年々進みつつあり、厚生労働省の推計によれば、平成19年9月現在の65歳以上人口は2739.6万人で、総人口の21.5%を占めている。

現在は、昭和22年～24年頃の戦後ベビーブーム期に誕生した、いわゆる団塊の世代が老年期を迎える時期に当たっているため、今後、65歳以上人口の割合は急激に増加し、平成42年には31.8%、さらに平成67年には40.5%に達すると予想されている。

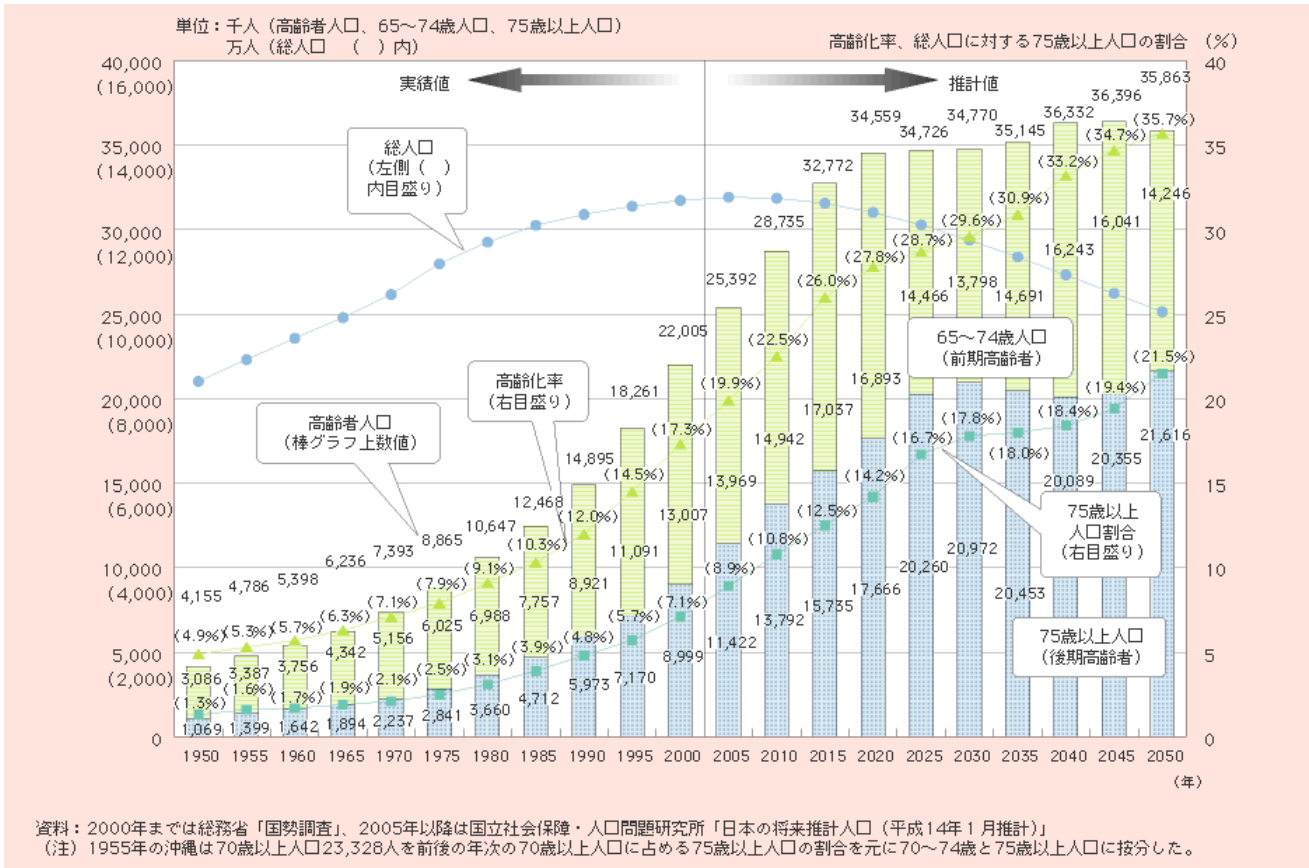
図表 1-1 我が国の人口ピラミッド

我が国の人口ピラミッド（平成17年10月1日現在）



出展：平成17年国勢調査

図表 1-2 高齢化の推移と将来推計



出展：平成 18 年版 高齢社会白書

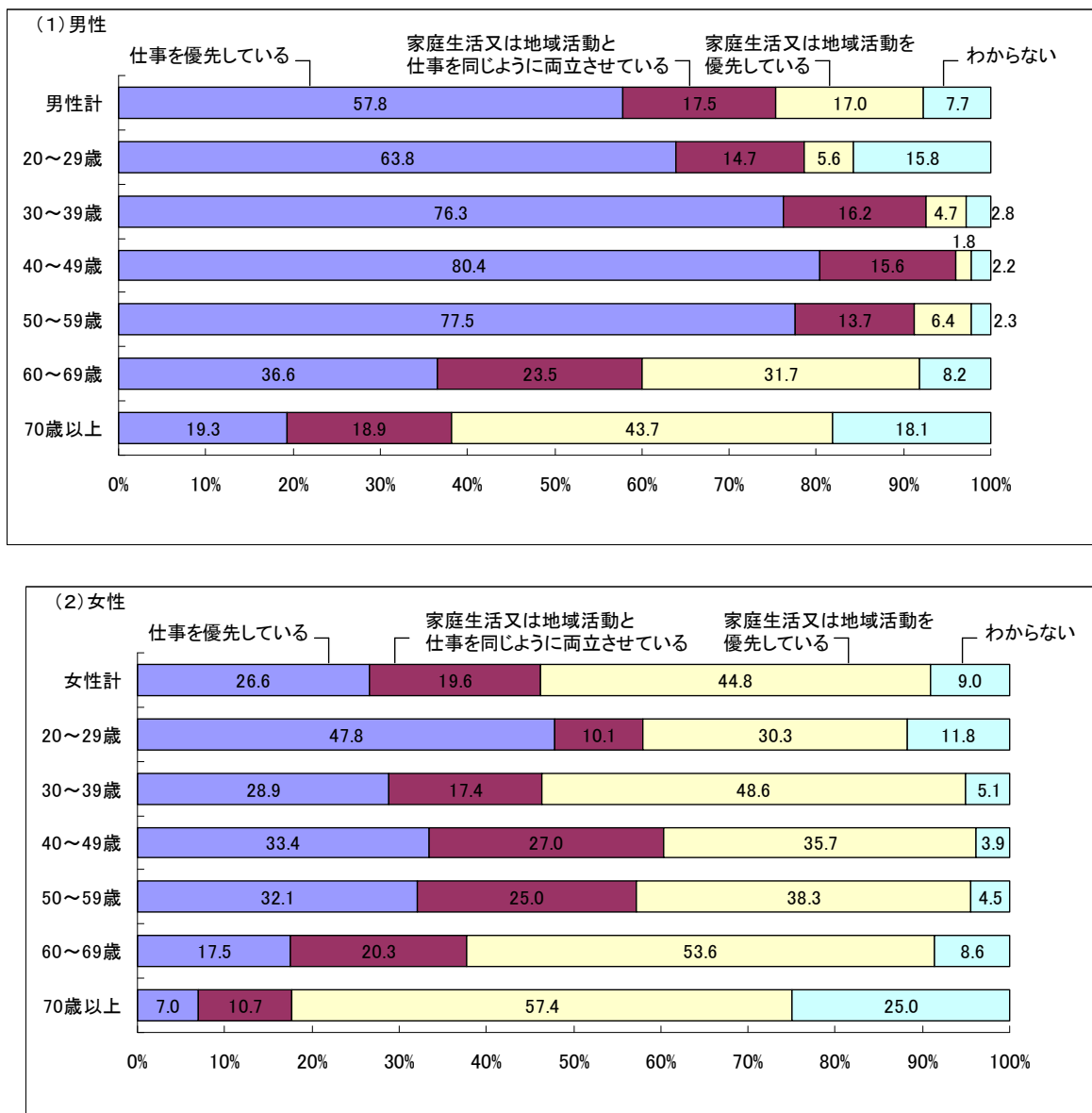
このような人口の高齢化の進展は、わが国の社会・経済の様々な面に影響を与えると予想されており、中でも、企業等に勤務してきた団塊の世代の定年退職に伴う労働人口の急激な減少は、経済活動に少なからぬ影響を与えると考えられている。また、退職した後の高齢者の「第二の人生」をどのように支えていくかも今後の大きな社会的課題となる。

## 1-2 高齢者の社会参加の現状

わが国は、世界でも有数の長寿国であり、60歳の平均余命は男性が22.41年、女性では27.92年に達する。長い老後の時間をいかに充実させるかは高齢者本人にとっても、社会にとっても重要なテーマとなっている。

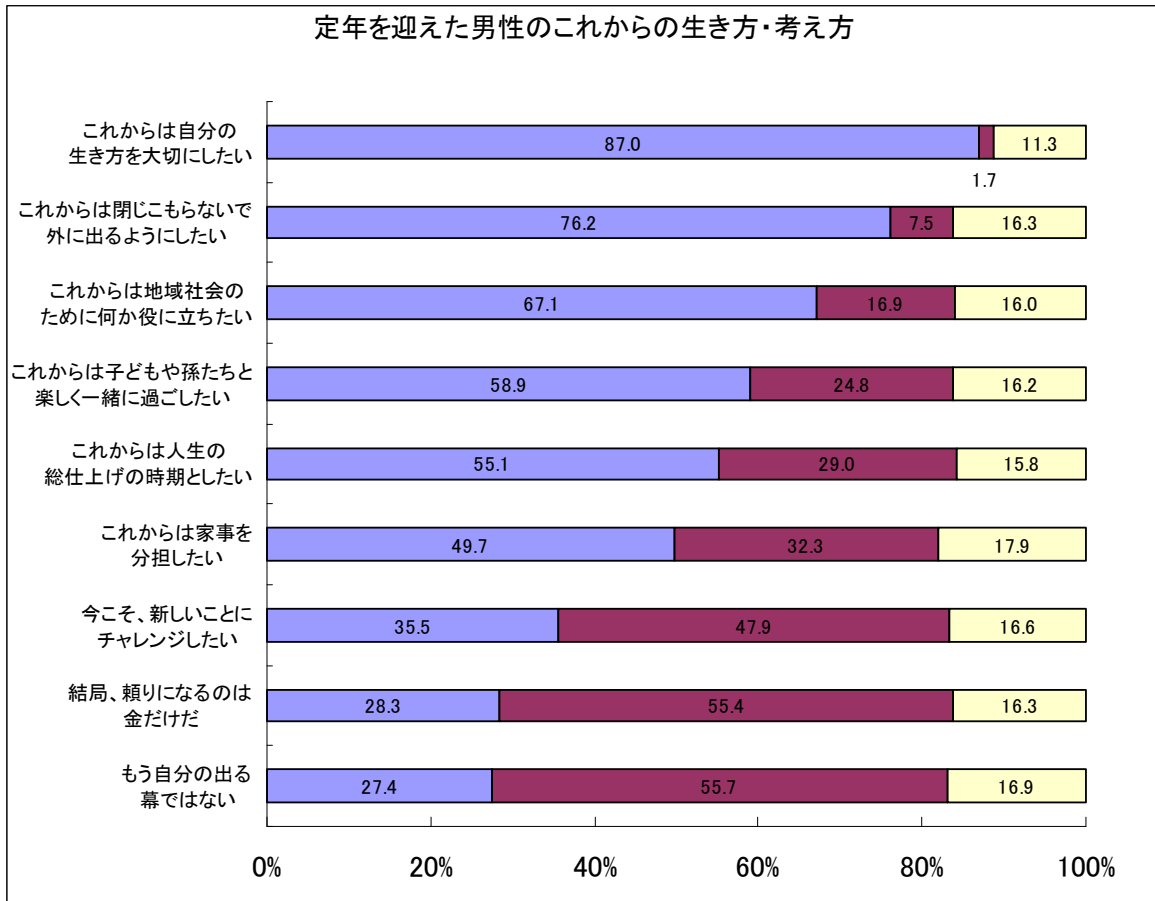
老後の過ごし方に関する意識調査では、特に男性において、60歳を境にそれまで仕事中心であった意識が家庭生活や地域活動に重点を移し、自分の生き方を大事にしたい、地域社会のために役に立ちたいと考える人が多くなっている。

図表 1-3 仕事と家庭生活または地域活動への関わり方



出展：平成18年版国民生活白書（内閣府）

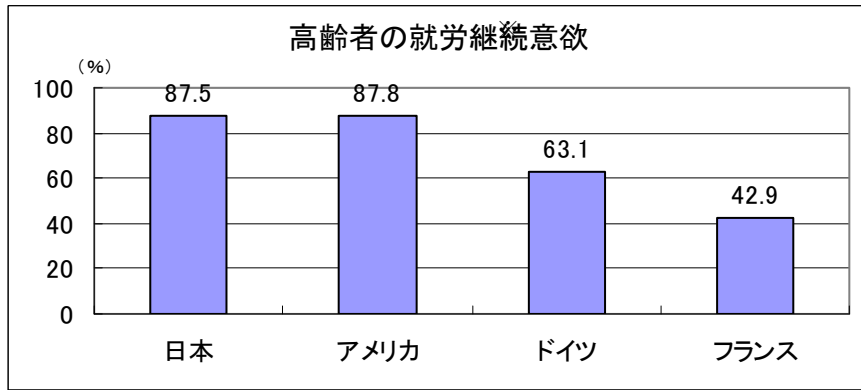
図表 1-4 定年を迎えた男性のこれからの生き方・考え方



出展：平成 18 年版国民生活白書（内閣府）

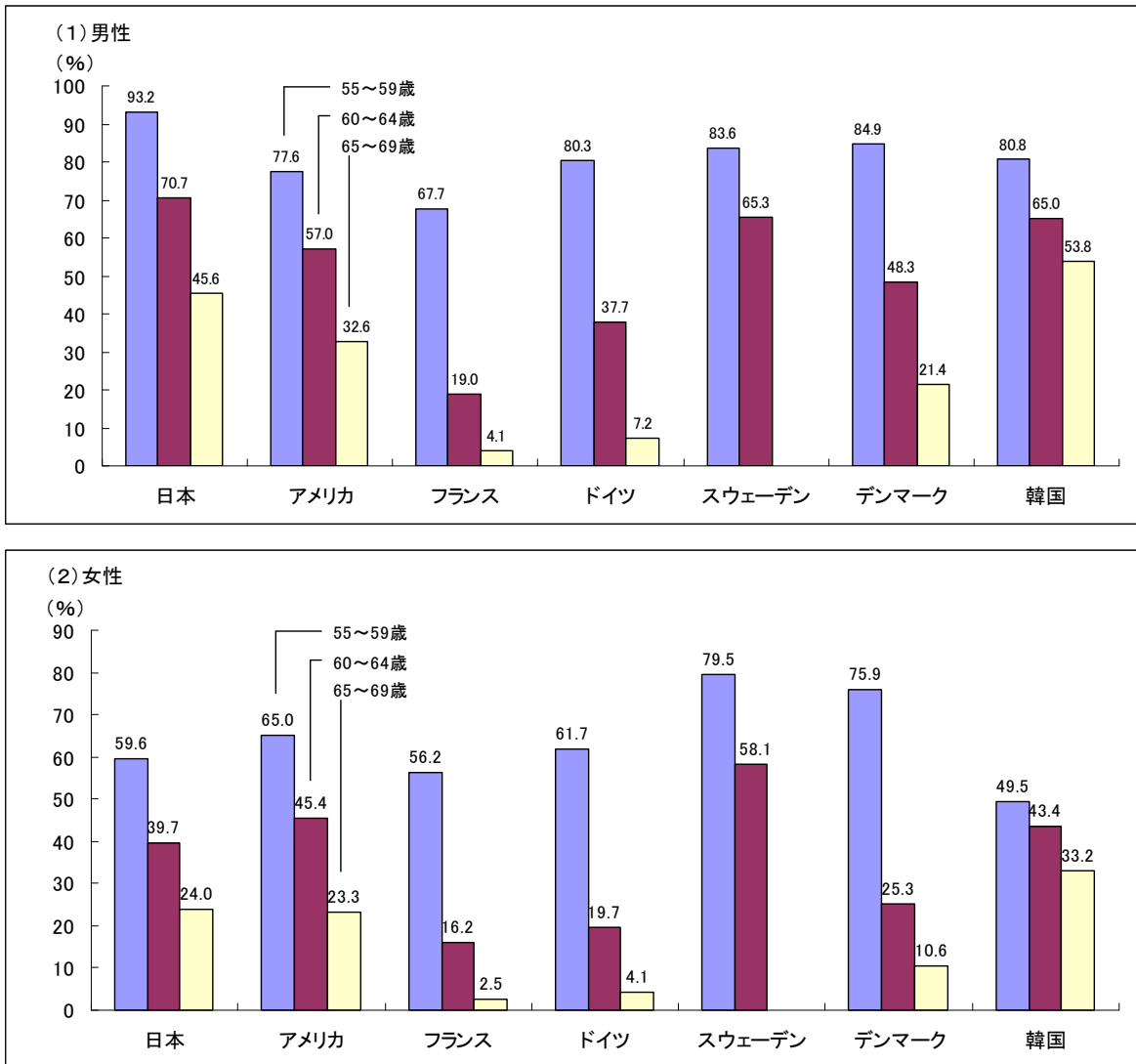
わが国の高齢者の特徴として、「体が動く間は働きたい」という労働意欲が欧米諸国に比べて高いことが挙げられる。また、60 歳を過ぎると男性においても就労している人の割合は低下するが、欧米諸国と比較すると、我が国の高齢者の労働力率（年齢層別の人口に占める労働力人口の割合）は男女ともに高い水準にある。

図表 1-5 国別にみた高齢者の就労継続意欲



出展：高齢者の生活と意識 第6回国際比較調査（内閣府） ※ 今後も収入を伴う仕事を続けたいと答えた人の割合

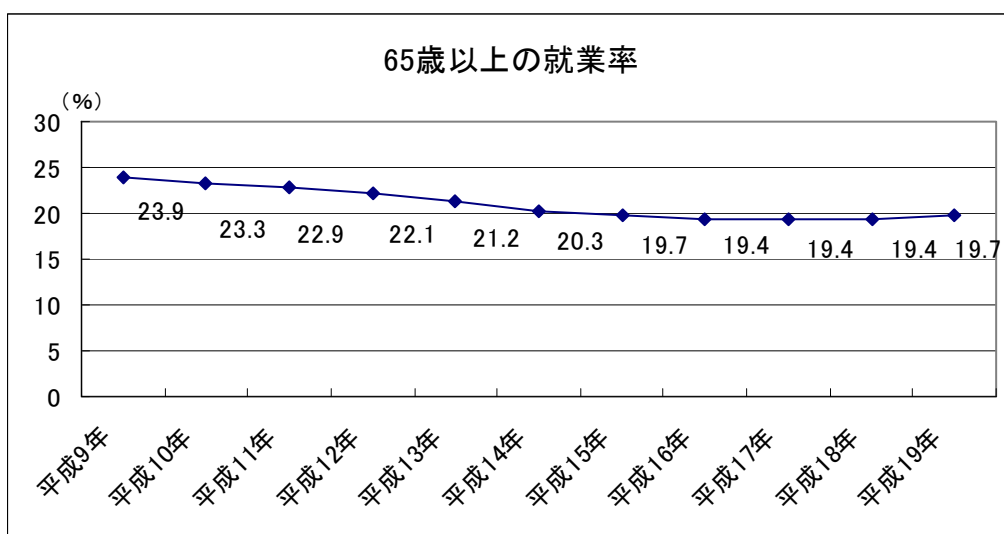
図表 1-6 主要国における高齢者の労働力率



出展：平成 18 年版国民生活白書（内閣府） ※スウェーデンの 65-69 歳についてはデータなし

一方で、わが国の高齢者の就業率は、過去 10 年で少しずつ低下して、最近では 20%を切っている。高齢者は、労働意欲は高いが、労働市場の問題などもあり、必ずしも就業できているわけではない。

図表 1-7 65 歳以上の就業率



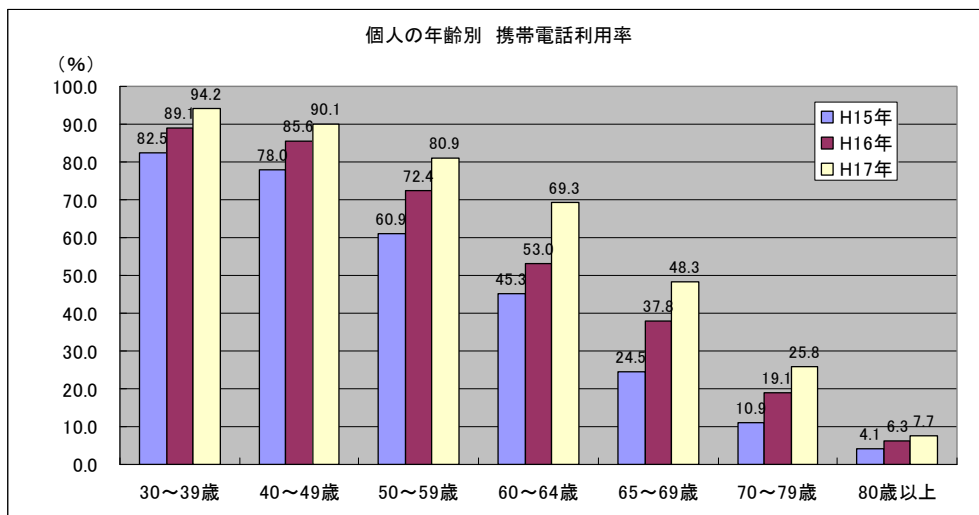
出展：労働力調査 平成 19 年（総務省）

### 1-3 高齢者のICT利用の現状

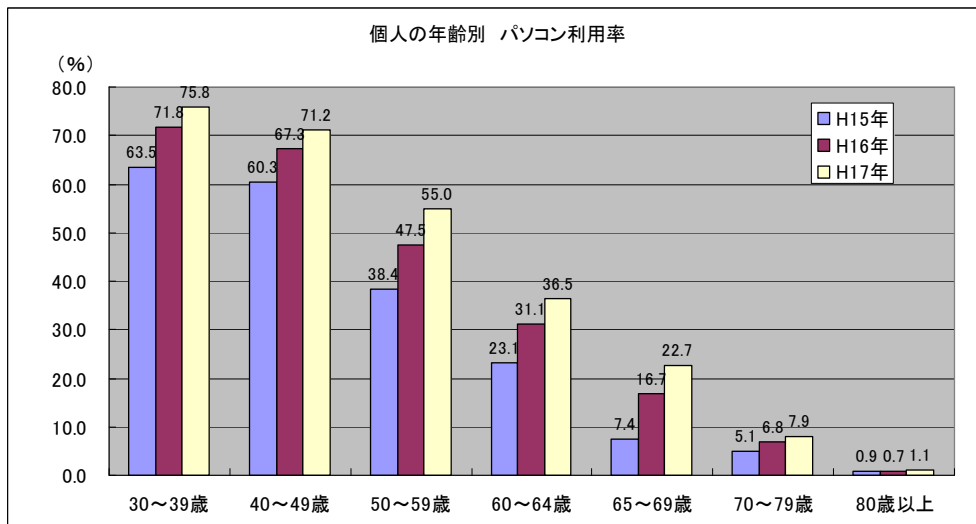
もともと、高齢者は新しい技術であり変化の激しい ICT の利用は苦手というイメージを持たれがちであるが、実際には、高齢者の ICT 機器の保有率やインターネット、携帯電話の利用率は年々増加している。

総務省の通信利用動向調査によれば、65歳以上の携帯電話利用率は近年急速に高まり、平成17年には65歳～69歳で48.3%と半数近くに達している。同様に、65歳～69歳のパソコン利用率は22.7%、インターネット利用率は42.0%に達している。平成18年になると60代後半のインターネット利用率は48.0%と5割近くに達すると共に70代、80代のインターネット利用率も大きく伸びており、ICT利用が高齢者にも急速に広がっていることがうかがえる。

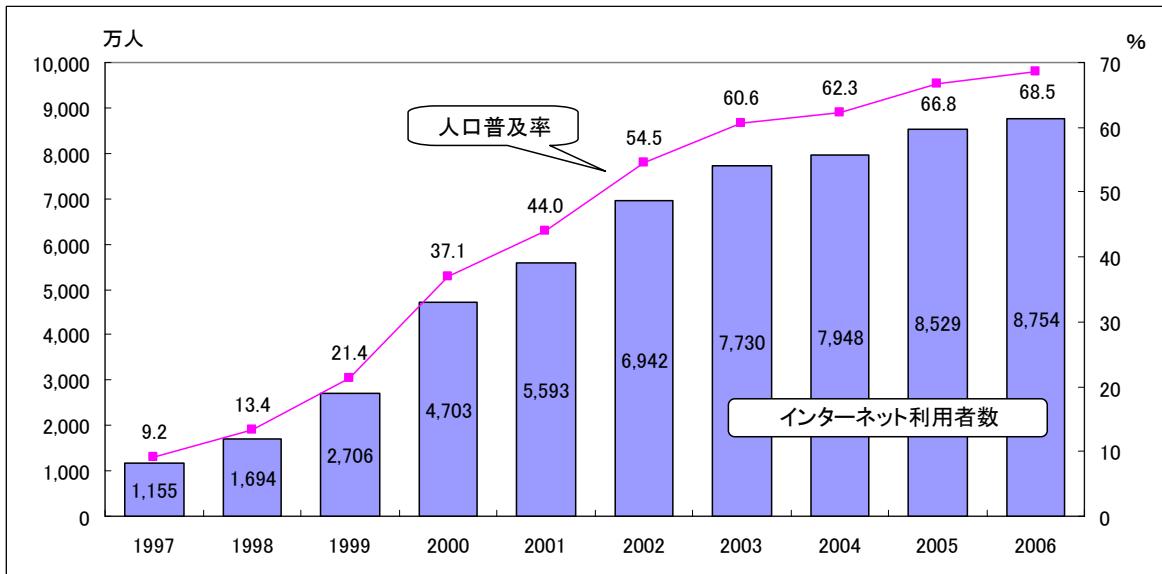
図表 1-8 個人の携帯電話利用率



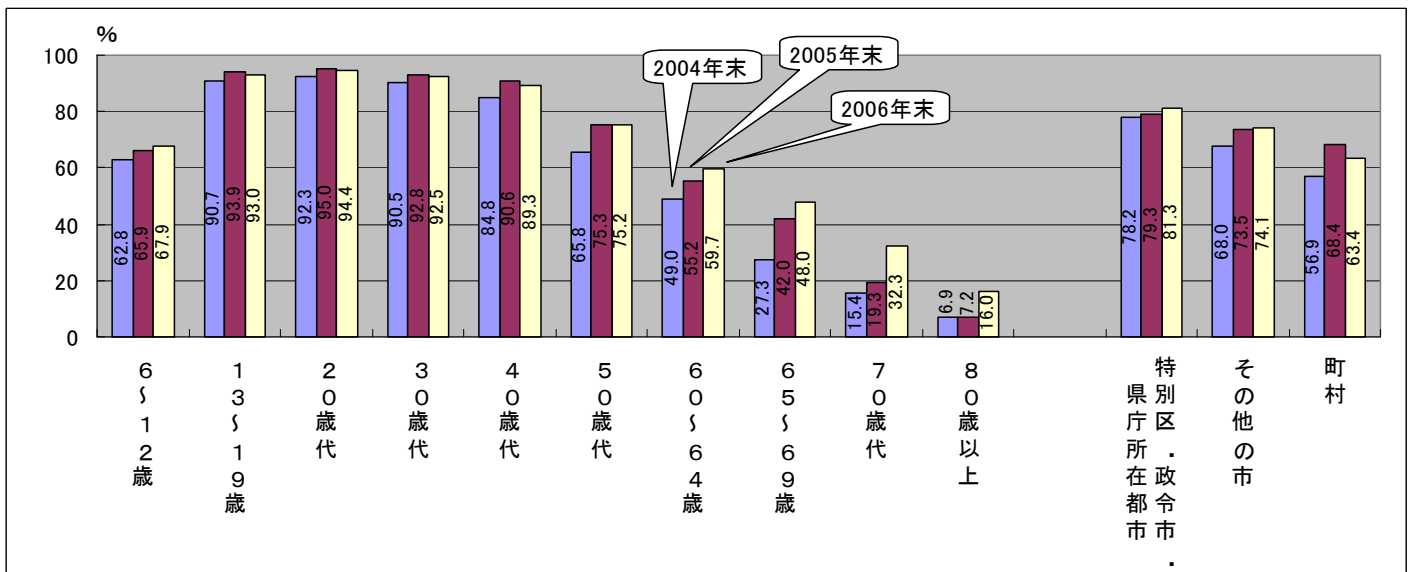
図表 1-9 個人のパソコン利用率



図表 1-10 インターネット利用者数・人口普及率



図表 1-11 年齢別・地域別インターネット利用率



出典 (図表 1-8~1-11) : 平成 18 年通信利用動向調査

このように、高齢者の ICT 利用は年々広がっているものの、他の年齢層の利用状況と比較すると、まだかなり低い水準にとどまっており、今後急速に拡大する可能性が大きい。